様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４３１９
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０１２２

研究課題名（和文）中国長江流域の早期仏像に関する統合的研究

研究課題名（英文）Study on Early Buddha Statues unearthed from Chang Jiang River area

研究代表者
金子　典正（KANEKO, Norimasa）

京都造形芸術大学・芸術学部・准教授

研究者番号：５０３３９６４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では長江流域で出土する後漢～三国時代に制作された中国早期仏像について個々の作例の調査研究を行い、さらに上流・中流・下流域に地域を分けて地域的・歴史的背景を踏まえて各地の早期仏像の成立と伝播ルートについて考察を行った。また従来等閑視されてきた出土墓の調査を行ったことにより、報告書には記されていない様々な現地の情報が得られ、その結果、後漢時代の作例が集中する四川省の上流域の早期仏像と、三国時代の作例が集中する中流域の湖北省武漢市周辺および下流域の江南各地の早期仏像との間には顕著な影響関係は認められないことが判明した。また、これによって伝播ルートの問題についても一定の見通しを得ることが出来た。

研究成果の概要（英文）：On Early Buddha Statues, which was produced in the East Han through the Three Kingdoms age, unearthed from Chang Jiang River area, I researched each works dividing the upper area, midstream and the lower area. As a result, it became clear that there are almost no relation between works in the upper area with midstream and lower area. The outcome of this study is that a perspective was obtained about a problem in a spread route of the Early Buddha Statutes.

研究分野：中国仏教美術史

キーワード：早期仏像　中国仏教美術史　揺銭樹　仏獣鏡　神亭壺　四川省　湖北省　江南

１．研究開始当初の背景

中国早期仏像とは後漢～三国時代に制作された中国最初期の仏像である。

当該分野の研究は石窟美術の研究が盛んな中国仏教美術史の中では圧倒的に少なく、従来の主な研究成果として黄文昆・姚敏蘇編『仏教初伝南方之路文物図録』(1993)、李正暁『中国早期仏教造像研究』(2005)など、日本では山田明爾氏や入澤崇氏などの研究があるものの、各作例の個別研究は決して十分ではなく、また伝播ルートの問題など残された課題は多い。

私自身も『中国早期仏像の研究』(博士論文、2007)で早期仏像の成立背景の解明を試みたが、その成果を振り返ると十分とは言えず、広大な中国ゆえに地域性を考慮した更なる研究の必要性を痛感していた。さらに近年、何志国『早期仏像研究』（2013）により新たな出土例が紹介され、早期仏像の造形的淵源の一つであるガンダーラ美術の研究も進展し、自説の再検討の必要性が生じた。

そこで本研究では長江流域を上・中・下流域に地域を分けて現地調査を行うと共に総合的見地からの考察を行うことにした。

２．研究の目的

研究目的は二つ。第一の目的は各作例の調査と文献調査による基礎研究の蓄積であり、とりわけ従来の研究で注目されていない出土地の実地調査を試みたのが本研究の特徴である。長江上流域では四川省で出土する揺銭樹などの作例を中心とし、中流域では湖北省鄂州市出土の仏像夔鳳鏡や武漢市出土の作例、下流域では江蘇・浙江省から出土した神亭壺を中心とし、また各地の関連遺跡を含めて調査した。

第二の目的は長江流域における仏像の伝播ルートの解明である。本研究ではあくまでも美術史的見地に立脚し、各作例の造形的特徴を比較検討して、それぞれの関連性や中原文化からの影響、また早期仏像の図像学的淵源であるガンダーラ美術との関係も含めて考察を重ねることである。

３．研究の方法

研究の具体的方法は、現地調査及び各作例の調書の作成、写真撮影、現地研究者との意見交換、文献調査などである。また現地の研究機関の協力を得ながら出来る限り作例の出土地を訪れ、出土状況や周囲の環境も確認することとした。

初年次は上流域を対象地として四川省成都市を中心とした。二年次も引き続き成都市、重慶市、中流域の湖北省鄂州市及び武漢市など、最終年次は長江下流域を対象地として江蘇・浙江省の作例、出土地、関連遺跡を調査した。またこれらに並行して文献調査を進め、各地の僧侶の動向や在俗信者の信仰の歴史について考察を重ね、最終的には実地調査の結果を踏まえて統合的に考察した。また、美術史的見地にもとづき仏像の伝播ルートについても検討することとした。

４．研究成果

(1)第一年次の研究は当該年度の対象地が長江上流域地であったため、平成 24 年 8 月 9 日～16 日まで四川省成都市および周辺の関連遺跡の現地調査を行い、年度を通じて調査地及び関連遺跡の文献調査を行った。

現地調査は四川大学芸術学院盧丁教授の協力を得て、成都市内の四川大学博物館、四川博物院、成都博物院、隋唐窯址博物館などを調査した。さらに成都博物院の羅玲氏の協力により眉山市江口漢墓を訪れ、同墓博物館館員趙尚春氏の案内のもとで調査が行えたことは大きな成果であった。

眉山市江口漢墓は南京博物院所蔵の早期仏像があらわされた揺銭樹台座が出土した後漢墓である。趙氏の案内によりまず当該崖墓の豆芽坊M166 崖墓を確認、さらに以前拙論で指摘した早期仏像との関係性が認められる抱擁図浮彫が発見された付近の砦子山M550 崖墓を確認したところ、当該墓は当地の農民によって殆ど破壊されてしまったことを確認した。

抱擁図浮彫自体は南京博物院に保存されているが、出土墓が無残に破壊されていたことには驚いた。とはいえ揺銭樹台座が出土した豆芽坊M166 崖墓との距離を実際に徒歩で確認できことは大きな成果だった。さらに付近のM951 崖墓に明らかに蓮華と確認できる図像が刻まれていることを知り、当地の後漢時代の仏教信仰を改めて考察する必要が生じた。加えてM839 崖墓にも仏坐像とみられる浮彫があることを確認し、本像は従来では知られていないため今後の課題となった。

この他に、四川師範大学芸術学院院長林木教授、四川大学芸術学院李晟副教授と面会する機会に恵まれ、今回の研究の方向性について多くの貴重な助言を頂くと共に、従前の研究成果について一定の評価をいただくことができた。

(2)第二年次は前年度の長江上流域の調査を継続し、さらに長江中流域へ対象地を移した。調査日と調査地は平成 25 年 4 月 26 日 ～5 月 5 日に四川省成都市及び湖北省武漢市とその周辺、同年 6 月 29 日～7 月 7 日に成都市、重慶市及びその周辺、同年 9 月 18 日～23 日に四川省成都市、同年 12 月 27 日～平成 26 年 1 月 10 日に成都市及び武漢市とその周辺地域、平成 26 年 1 月 22 日～24 日に台湾台北市故宮博物院を訪れ、また昨年度に引き続き文献調査も継続した。

このうち四川省の調査は成都市内の華通博物館、巴蜀漢陶芸術博物館、郫県の朱成私立石刻芸術博物館といった私立の博物館を

中心に訪れ、後漢時代の揺銭樹や画像石の秘戯図など早期仏像に関する幾つもの新資料を見出すことが出来た。なかでも朱成私立石刻芸術博物館には後漢～宋時代の様々な石仏が所蔵されており、それらの伝来や制作年代については疑問が残るものの、従来の研究では知られていないものばかりであった。

さらに成都市の北東に位置する什邡市を訪れて、仏塔があわらされた後漢時代の画像塼が出土した白果村を訪れた。現地の様子やその歴史背景を知ることが出来たのは大きな成果であった。

重慶市では重慶中国三峡博物館を訪れて豊都県出土延光四年（125）銘の仏像付揺銭樹台座を調査した。さらに仏像が蟬の幼虫に挟まれた揺銭樹の樹幹断片が出土した忠県の後漢墓を調査した。墓の位置を報告書の記述と照らし合わせると、三峡ダム完成による大幅な水位上昇が認められたのは大きな驚であった。また市街地では後漢時代の丁房闕を調査したことにより当地の歴史的背景を把握することが出来た。

湖北省では湖北省博物館、武漢市博物館、荊州市博物館、鄂州市博物館の調査を行った。このうち鄂州市博物館は平成 25 年 10 月に新建された展示内容が大変充実した博物館であり、1992 年に同市内鄂城から出土した三国時代の釉陶仏像のほか幾つもの未見の作例を実見することが出来たのは大きな収穫であった。

(3)最終年次は長江下流域の早期仏像とりわけ三国時代に制作された神亭壺を中心に研究を行った。調査日と調査地は平成 26 年 5 月 1 日～6 日に江蘇省南京市及び浙江省紹興市と寧波市、同年 7 月 30 日～8 月 7 日に蘇州市と揚州市周辺及び浙江省杭州市、同年 12 月 27 日～平成 27 年 1 月 5 日に北京市、四川省成都市、上海市において調査を行った。国内では引き続き調査地や関連遺跡に関する文献調査を行った。

調査内容は、江蘇省では南京市の改修後間もない南京博物院と南京市博物館、また蘇州博物館、鎮江市博物館を訪れた。浙江省では浙江省博物館、新建の紹興市博物館と寧波博物館を訪れた。

上記のうち新建や改修を経た博物館は早期仏像の展示数が従来の展示に比して増加しており、詳しく調査する機会を得た。とりわけ南京市博物館の大報恩寺出土阿育王塔の展示は予想以上であり、さらに市内大行宮から出土した青瓷釉下彩神獣瑞鳥紋盤口壺には肩口に早期仏像が付されていることを発見した。同様の雨花台出土青磁鉄絵貼花文壺の研究にとって大いに資するものとなった。加えて、杭州では霊隠寺石窟および新昌大仏寺といった早期仏像に続く南北朝時代以降の仏教美術の遺跡を調査した。江南地域における仏教信仰の展開を考察するうえで貴重な現地調査だったといえる。

北京市では中国国家博物館を訪れ、館蔵品と訪問時に開催されていた仏教東漸に関する特別展の出陳品を調査する機会に恵まれた。また上海博物館でも館蔵品とコルカタ・インド博物館所蔵インド・ガンダーラ仏の特別展の出陳品を調査することが出来た。

加えて、平成 26 年 12 月に四川省成都市の中心に位置する寛巷子付近から南北朝時代の石仏が大量に発掘されたという報道があった。当該時代の仏教美術を以前から研究していたこともあったため、早速現地を訪れて出土地を確認し、さらに帰国後に文献の記述を精査すると、大変興味深い新知見を得ることが出来た。今後も研究を続けて論文執筆に繋げる予定である。

(4) 上記の現地調査において各作例の出土地に出来るだけ足を運んだことは大変良い経験だったと実感している。実物と文献の研究では得ることが出来なかった各地の歴史や風土を実体験することは作例の理解を深めるのに大きく役立ったと言える。

成都市北東の什邡市、成都市から長江を下った楽山市、豊都県、忠県はいずれも古代四川の交易上の都市であり、当該地域の早期仏像の伝播を考えるうえで大いに役立つ。また、前述した忠県の丁房闕のような後漢時代の文物、さらに石器時代以降の出土遺物を地元の博物館で調査出来たことも従来にはない作例の捉え方を可能にすることが出来た。

加えて、湖北省鄂州市の早期仏像の出土地である寒渓路を訪れてみると、現地は長江の畔に聳える西山の麓に位置することがわかり、さらに西山に登ってみると江南と盛んに往来する長江の漕運を眺望することが出来た。西山と鄂州市の歴史的意義について研究し、その成果の一部は論文「『高僧伝』所収の阿育王像説話の成立について」で発表した。

こうした各地の現地調査や作例と出土地に関する文献研究を通して、全体として見えてきたことは、後漢時代の作例が集中する四川省を中心とした上流域と、三国時代の作例が多い中・下流域との間では、早期仏像の造形的特徴のみならず文化圏の差異が認められることである。

すなわち、上流域の揺銭樹にみる早期仏像は従来指摘されている通りガンダーラ仏の造形的特徴を受け継いでおり、その出土地は成都市の南北や長江を下った重慶市まで及ぶ。この範囲は例えば同地域の画像石の図像や様式の広がりとも一致している。

一方、三峡ダムを越えた武漢市や鄂州市から出土した早期仏像には上流域の特徴は顕著ではなく、わずかに仏像夔鳳鏡の龍虎坐に四川の画像石の図像がみられるのみであり、その他の作例は例えば湖北省博物館所蔵鄂州市寒渓公路 4 号墓出土の青瓷仏像堆貼盤口壺のように明らかに江南各地から出土する神亭壺にみる早期仏像の造形に通じるものがある。このことは武昌（鄂州市）に一時

呉の都が置かれた呉の文化圏内の事象と捉えることができ、延いては、かつて阮栄春氏が指摘したような上流から下流域へ順次伝播したというルートは想定し難いことが明らかにできるのである。またこのことは江南の早期仏像の成立が新たな外的刺激によるものである可能性を示唆していると言えよう。2008 年に湖北省襄樊市から出土した楼閣式仏塔の制作年代の問題も含めて今後も考察を重ねて行く。

以上、本研究において巨視的視点から長江流域の早期仏像の成立について再検討出来たことは大きな成果であった。また個々の作例について十分とは言えないものの今後の研究に資する幾つかの新知見や新資料が得られたことを勘案すると、当初の研究目的は概ね達成出来たと考えている。

５．主な発表論文など
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）
①金子典正、『高僧伝』所収の阿育王像説話の成立について、『京都造形芸術大学紀要ＧＥＮＥＳＩＳ』、査読有、17 号、2013、86-95

〔学会発表〕（計　1 件）
①金子典正、長江流域の早期仏像の諸問題について、2014 年度第 2 回中国美術研究会、京都大学人文科学研究所本館四階大会議室、2014 年、6 月 22 日

〔図書〕（計　1 件）
①金子典正、他、中央公論美術出版、アジア仏教美術論集、2015、未定

６．研究組織
(1)研究代表者
金子　典正（KANEKO, Norimasa）
研究者番号：50339644

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし